

高知若草特別支援学校土佐希望の家分校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	目指すべき姿	学校像 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき姿の概要 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	(1) 学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2) 卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3) 教員の専門性の向上と指導力の育成 (4) 児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5) 特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者、関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6) 学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもも誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包括的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	目指すべき姿	児童生徒像 ○「知」自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身につけた児童生徒 ○「働」意欲・協働・協力 ○人や環境と積極的に関わり、自立（自律）し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協働、協力しようとする児童生徒 ○「体」健康、体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的な生活習慣を身につけた児童生徒	目指すべき姿の概要	

《重点取組項目》 (評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【O】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
学校設定項目 教育課程の質の向上	○教育実践の共有や蓄積による系統的な指導のための年間計画や単元計画を作成し、充実を図る ○児童生徒の実態に基づく各教科等で育成する資質・能力を踏まえた指導と評価の一体化を図る	【現状・課題】 ○■教科の見方考え方という点においては、重度重複の児童生徒の教科学習の内容をどう考えるのか、について研修を重ねながら本校独自の教科の見方考え方や教材の共有について検討を重ねている。 ○年間計画・単元計画を活用した公開授業の取組については、2サイクルで実施し、同一教科で行う2回の公開授業を比較しながら、指導と評価の一体化や教科としての系統性、各教科や自立活動との関連性について検討する研修形態が確立しつつある。 【目標】 ①単元計画案の作成、検討を行い、加えて3年計画で教材や学習内容の共有等データの蓄積を図る。(3年計画/1年目) ②児童生徒の実態に基づく各教科等の目標設定や観点別評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 【教職員肯定的評価】90%	①の目標について ・全教員2サイクルの公開授業を実施。同一教科で行い、授業の改善点(教材を含む)や主・対・深の視点での授業づくりができていくかの検討を図る。(研究部) ・各学部の教科等の時間数が必要かどうかの検討を重ね、個に応じた時間数を考える。(教務部、各学部) ・学習内容の蓄積についての方向性や蓄積データの保管を行い、事例集作成に向けての取組をけん引する。(研究部) ②の目標について ・単元計画作成時間を利用しながら年間計画、個別の指導計画、単元計画を連動した計画をたて、児童生徒の実態に応じた育成すべき資質能力を考え、目標設定、観点別学習評価を行う。(各学部) ・教科の見方・考え方について、教育課程研究会やその他の研修を受講することで方向性を見出し、本校の目標設定ガイドブックの改善充実を図る。(教務部)				学校関係者からの意見やアンケート結果などを記入	
教育専門性の向上 教員専門性の向上	○キャリア発達を促す視点で授業づくりを行い、子どもの年間の重点目標を達成する ○自立活動と教科の関連性の理解と時間の指導の充実を図る ○個別最適化をめざすICTの効果的な活用を図る	【現状・課題】 ○■本校は、キャリア発達段階表をもとに個別的教育支援計画の目標設定を行っている。現行のキャリア発達段階表では、本校児童生徒の実態に合わないところがあるところからキャリア発達段階表について、進路地域支援部で見直しを行い、ときと向上委員会にて検討を行ってきた。まだ不十分な点があるので次年度も引き続き検討していく必要がある。 ○毎年4月に「自立活動とは？」をタイトルに研修を実施し、本校における自立活動の重点的な内容や環境整備、配慮事項について、繰り返しの研修を行うことで教員の力量アップを図っている。 ○■児童生徒のICT活用率は100%だったが、活用の幅という点では今後とも増やしていく必要がある。そのためには、教員間もアプリのDLの仕方や活用できるものなどに対する知識を増やしていく必要がある。 【目標】 ①学習活動にキャリア教育の視点を取り入れ、個別的教育支援計画と個別の指導計画の目標がリンクできる形を作る。 ②児童生徒の重点目標(中心課題)に関わる自立活動の理解と指導の充実を図る。 ③児童生徒の個別最適化を図るICTの活用を推進する。 【教職員肯定的評価】90%	①の目標について ・キャリア発達段階表を活用し、個別的教育支援計画を作成。作成後は、個別の指導計画との関連を図りながら目標設定を行ったり学習活動に取り入れたりする。(進路・地域支援部、各学部) ②の目標について ・自立活動と教科の関連性や時間の指導の充実を図るため、4月当初に研修を実施する。(研究部) ・単元計画を作成する際、自立活動と教科の関連性を意識し、単元計画表に明記、作成する。(各学部) ③の目標について ・ICTを有効活用できるよう、アプリの共有やICTの活用方法についての研修を行う。年間2回程度の研修機会を設ける。(児童生徒部(GIGAスクールサポーターとの連携)) ・ICT(VOCAを含む)についての活用方法や活用場面で研修や指導場面で共有することで教員一人一人のICTに対する苦手意識の払しょくやICTの知識の拡充を図る。(研究部・各教員)					
キャリア教育の充実 つなげる教育力の向上 自律と社会参加に	○子どもたちの豊かな生活につながる文化、芸術、スポーツ活動の充実を図る ○子どもたちの未来を支える環境教育や防災学習を推進する ○関係機関との連携を図る	【現状・課題】 ○児童生徒が文化、芸術、スポーツ活動に関わる機会は増えてきている。校外のコンクールや作品展等に出品したり、肢体不自由特別支援学校間でスポーツ交流をしたりしながら児童生徒が文・芸・スに触れる機会が増えてきた。 ○■環境教育として、本校では卒業を見越した持続可能な取組を模索している。また、それが個別的教育支援計画とリンクできるようにキャリア発達段階表の改訂を行っている。 ○防災訓練やコードブルー訓練を隣接施設にも参加していただきたいが行なっていて、現状は問題なく訓練ができている。 ■隣接施設と訓練は行っているものの一斉避難訓練は行っていない。 ○隣接施設や地域の専門家と連携し、児童生徒の実態に応じた支援の仕方について研修実施している。 【目標】 ①文化・芸術・スポーツ活動の取組を推進する。 ②卒業後を見据えた、持続可能な取組の実践及びキャリア発達段階表の充実・改定を行う。 ③隣接施設や関係機関と連携を図り、災害、医療、療育等様々な場面を想定し、児童生徒の実態に即した支援の実を図る。 【12月末アンケート肯定的評価】②90%	①の目標について ・文化芸術について、校内外のイベントへの展示及び出版を推進する。(教務部) ・日々の学習活動やとき運動会、5校のボッチャ大会などスポーツを通して親睦を図りつつ、体力の維持増進に努める。(児童生徒部、教務部) ②の目標について ・学習活動を通して、児童生徒の興味関心や持続可能な取組(卒業後に必要な力)を模索する。(進路・地域支援部、各学部) ・昨年度に引き続きキャリア発達段階表の継続的な検討を行い、より児童生徒の実態に即した内容の充実を図る。(進路・地域支援部、ときと向上委員会) ③の目標について ・災害時の福祉避難所設置や受け入れ等について、研修及び模擬訓練を行う。(児童生徒部・人権主任) ・隣接施設と合同の防災訓練やコードブルー訓練の実施。(児童生徒部) ・医療的、療育的な研修や相談、協力について、日ごろから隣接施設と意見交換をし、連携しやすい関係づくりを構築する。(教頭、養護教諭、研究部、各学部) ・放課後等デイサービスやショートステイ等と利用する地域の施設との連携を図る。(進路地域支援部・総務部)					
働き方改革	○効果的な教育活動を行うために、現状を問い直し業務の改善を進める ○自らの働き方に向き合うことで、生活の質を高め、教職人生を豊かにする	【現状・課題】 ○若草3校では、不祥事を起こさない職場づくりに向けて、目標設定シートに位置付けて自身の取組を「見える化」し、校長面談を活用してPDCAサイクルに取り組んできており教職員の意識は向上しつつある。 ○■県内で発生した不祥事の事案を自分事として捉える意識はまだ十分でない。 ○■学部等を越えて協力し合える風土はできつつある。さらに、心理的安全性が大切にされた職員室の雰囲気づくりや会議・研修会の実施を目指したい。 【目標】 ①不祥事根絶に向けて、組織的に取組を進めるとともに教職員一人一人が主体的に取り組む。 (学校評価アンケート12月末肯定評価90%) ②教職員一人一人がタイムマネジメントに取り組み、ワークライフバランスを意識した働き方を実践する。 (12月末アンケート肯定的評価90%)	①の目標について ・令和7年度も第2木曜日を単元計画作成日、第4木曜日を単元計画の検討日とし、単元計画表の充実を図る。(教務部) ・働き方を見直すという視点で昨年度と比較しながら、良い活動は継続、見直し点があるものについては、再度検討をし、よりよい働き方を模索する。(全教職員) ②の目標について ・帰れるときには帰る」を合言葉に、教員間で互いに声を掛け合いワークライフバランスを図りながら勤務のマネジメントを行う。(全教職員) ・繁忙期を除く平時の退勤時間は、令和7年度も18:30とする。水曜日はNo残業デーとし、17:30退勤とする。退勤時間が近付いたら管理職がアナウンスする。(全教職員、教頭) ・教職員の福利厚生として、職前朝にラジオ体操を推奨する。(教頭、総務部)					
不祥事防止に向けた取組	○「不祥事防止委員会」の中で学校全体で不祥事根絶に向けた取組を強化する ○明るく風通しのよい職場づくりに向けての環境整備を行う(ヒト、モノ)	【現状・課題】 ○若草3校では、不祥事を起こさない職場づくりに向けて、目標設定シートに位置付けて自身の取組を「見える化」し、校長面談を活用してPDCAサイクルに取り組んできており教職員の意識は向上しつつある。 ○■県内で発生した不祥事の事案を自分事として捉える意識はまだ十分でない。 ○■学部等を越えて協力し合える風土はできつつある。さらに、心理的安全性が大切にされた職員室の雰囲気づくりや会議・研修会の実施を目指したい。 【目標】 ①不祥事根絶に向けて、組織的に取組を進めるとともに教職員一人一人が主体的に取り組む。 (学校評価アンケート12月末肯定評価90%) ②教職員が互いに価値を認め合い、協力し合える職場環境の創造に積極的に取り組む。 (学校評価アンケート12月末肯定評価90%)	①の目標について ・毎月、不祥事防止委員会を実施し、不祥事に対する意見交換を行いながら啓発を行う。(教頭、不祥事防止委員会) ・職前等、不祥事についての定期的な発信を行いながら、不祥事の未然防止の啓発に努める。(教頭) ②の目標について ・教職員全体が笑顔で接することができるような話題提供や雰囲気づくりを行う。(全教職員) ・児童生徒、教職員の動向について職前等で確認し、学部間で連携協力を行う。(学部主事) ・分掌業務を1分掌だけで考えるのではなく、必要があれば分掌部間で協力し、双方の負担を軽減する。(分掌部長)					